

第40回北海道地区本部定期大会を開催



菊地委員長

8月23日(土)札幌市内において開催され、今後の運動方針が満場一致で可決されました。

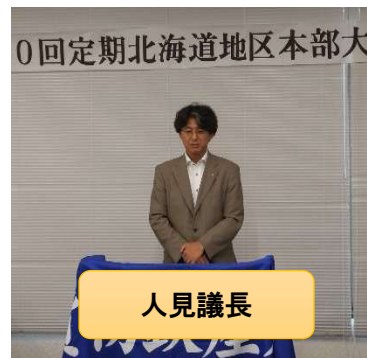
執行部を代表し挨拶に立った菊地委員長は、「安全の確立、貨物会社の経営状況、組織課題、政策課題」の4項目について、2024年度はJR産業全般で重大な事象が多発した。いかなる経営環境・経営状況にあろうとも、安全確立は事業運営の根幹で最重要課題であり、自分や仲間・家族を守るためにも「安全は絶対に譲らない」「労災は絶対に起こさない」という信念のもと、職場で

声を上げて改善していかなければならない。貨物会社の経営状況は、2025年3月期決算で黒字転換を果たしたが、現状の厳しい状況を認識し、今後どのように成長・変革していくか労使一体となり未来のある会社を構築していかなければならない。組織課題については、組織は衰退の一途を辿っており、今いる仲間がこの鉄産労を守っていくために何ができるのか考えていく必要がある。会社は未来に希望の持てる魅力ある会社作りを推し進めなければ、ますます離職は加速し新規採用者は遠のいていく。貨

物会社の存続そのものも危ぶまれる状況に危機感を持って対応していかなければならない。政策課題では、7月に「北海道新幹線札幌延伸に伴う鉄道物流のあり方に関する有識者検討会議」が開催され、中間取りまとめとして、「新幹線札幌延伸後も貨物路線を維持する必要がある」との結論で一致した。新幹線延伸開業までには、アボイダブルコストルールの更新・貨物調整金制度の扱いなど、JR貨物の経営に大きく関わる課題について、必要な措置が講じられるようJR連合と共に展開していかなければならない、と挨拶がありました。



鈴木書記長



人見議長

来賓挨拶では、JR連合北海道地方協議会人見議長（JR北労組委員長）にお越し頂き、人見議長からは、安全・政策・組織課題を中心に挨拶を頂き、その後、中央本部鈴木書記長から自己紹介を含め、会社の状況・安全・組織課題・政治と政策課題について挨拶がありました。

続いて、執行部より運動方針（案）提起し、質疑では「安全について」「組織拡大に向けた取組み」「離職防止に向けて」「出向先の労働条件」「要員不足について」などの質疑があり、本部・地区本部より意見や考えを述べ、吉永書記長がおこない、最後に、菊地委員長による団結ガンバローで定期大会を終了しました。

その後、場所を変えて短時間でしたが懇親会を開催し、交流を深めました。



吉永書記長